

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172900714), 法人名 (有限会社 旭川高齢者グループホーム), 事業所名 (グループホームほーぶ 東棟), 所在地 (旭川市春光台5条2丁目14番7号), 自己評価作成日 (令和2年10月17日), 評価結果市町村受理日 (令和3年3月15日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は旭川市郊外の小高い丘に位置しており、清閑な環境にあります。同一敷地内には訪問介護・訪問看護・デイサービス有料老人ホーム等があり、利用者に必要なサービス提供が可能となっています。事業所全体で感染症対策を講じ、面会者への体温測定・健康状態チェックリスト記入、状況に応じ面会の自粛を図っています。「今月の目標」を毎月掲げ、職員一同が実施可能な目標に向けて励んでいます。日中帯は看護師が勤務し、利用者の健康管理・医療機関との連携等図っており、夜間・緊急時も連絡体制が整っており、状況・状態に応じた対応を行っています。又、利用者の医療機関への受診は基本的には職員が対応して家族への負担軽減を図っています。食事は栄養士が献立し、栄養面での配慮も行っていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0172900714-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172900714-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年2月24日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「対象者の欲求の充足・尊厳・秘密の厳守、対象者に優しく切実な対応・日々知識技術の向上」を掲げ、職員や家族が目にする場所に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣住民との交流は少ない。地域の民生委員の方とは、運営推進会議にて交流を保っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて委員の方々へ認知症についての話し合いや意見交換を行っている。管理者は「キャラバンメイト」であり、要望に応じて認知症サポーター講座を開催可能である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、利用者の状況・事故報告・事業所の取り組み等を報告し、意見を伺いながら、サービス提供を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問や解らない事柄があれば、市の担当者へQ&Aを行い、問題解決に努めている。又、保護課の担当者との情報交換・必要書類の提出を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に「身体拘束廃止委員会」を開催し身体拘束についての再確認・再認識を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員全体で、利用者の心身状態の把握・情報交換等を図り、早期発見に努め、状態変化があった場合、速やかに利用者・関係職員への聞き取り・対応を行い、虐待防止を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者があり、職員も制度への理解や関係者との関わり合いを持ち、身近に制度を実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は、必要書類を前に口頭にて説明し、理解・納得をして頂きながら進めている。法の改正自は、事前に書面にて説明・同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けていないが、利用者からは随時意見要望を受け、その都度対応を行っている。家族等は面会時や連絡報告時等に伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員からの意見要望を聞き、必要に応じて対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、文書にて職員への周知を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者会議の開催・資格習得への援助を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月「転倒・転落委員会」が開催され、各事業所の担当者からの報告・意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居以前に、本人の情報を収集し又、本人・家族から不安に思っている事を伺い、不安なく入居して頂く様に勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に、本人の情報を収集し又、家族やケアマネージャー等からの情報交換を行い、家族の思い・要望等把握し、家族との意見交換により不安の払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人の状況・状態の把握を行い、家族からの要望や思いを聴いた上で、当施設が適切なのか、異なった施設紹介が必要なのか検討し、提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する立場ではなく、ユニット内で生活している利用者と共に、適切に日常生活を過ごして頂く様に支援・アドバイスを提供する様に務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や連絡した際、本人の状態・状況を伝え、家族側の思い・要望等を伺う様に努め、家族との関係保持を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から了解を得ている場合、外部からの電話の取次ぎや面会を受け入れている。 家族から送られてきた荷物等は、本人と共に確認して適切に利用して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の状況に考慮した場所の提供、関わり合える時間・場所の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等での退居後の再入居の受け付けや、他の施設入居後の相談・要望を受け付け、出来る限りの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の言動や思いに耳を傾け、又、表情を伺い、思い込んでいる事柄や要望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネージャー等からの情報提供や個々の生活歴や生活環境等の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を送るために必要な支援や生活状況に応じた支援、最低限必要な支援の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成にあたっては家族や本人の考えや要望の聞き入れや介護スタッフからの提案や意見、モニタリングを通じて介護計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に個々のモニタリングを行い、ケアの実施状況やその結果、改善の必要性を検討し、実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病状に応じた医療機関の変更、生活状況や精神面での支援、必要である各種申請の手続きを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人を支えている家族や知人・医療機関、市町村関係者等との繋がり継続を支援し、不安の無い生活継続を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の利用は本人や家族の要望により利用して頂いている。かかりつけ医への受診は職員が付き添い、日々の心身状態の報告により情報交換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身状態の変化時は、看護師へ報告し指示を仰ぎ、対応について文書や口頭にて他の職員と共有している。訪問看護へは、個人記録の確認や口頭にて状態報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応や入院中の定期的な面会や医療従事者との情報交換を行い、病状把握を行い、早期退院の受け入れを図っている。医療機関へは職員の付き添い対応にて認知して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用契約時に「重度化した場合における対応に関わる指針」の説明・同意を得ている。病状の悪化に係る今後については家族との話し合いを行っている。終末期に係る関係医療機関との連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員対象での「救急救命講習」の受講を開催し、未受講者を優先して受講を斡旋している。事業所内にAEDを設置し万が一に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、日中帯と夜間帯を設定した避難避難を実施している。新採用職員を優先して実施し、職員全員が対応出来る様に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々が歩んできた立場や環境に考慮した対応に努め「施設に入居している」という思いや意識を払拭して頂ける様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の日課の過ごし方は、本人に決めて頂いている。決定が困難な場合はその時の表情等を勘案して決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はありますが、本人の要望や状況に応じた対応を可能な限り行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理容や毎朝の整容、季節に応じた衣類の購入や入れ替えを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好や体調・病状に応じた食事の提供、行事食や暦に応じた献立を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立している。食事摂取量のチェックや医師からの指導による水分摂取量を保っている。咀嚼能力に応じた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。必要があれば歯科医の受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に応じたトイレへの誘導・排泄を支援している。日中・夜間帯の定時の排泄確認・オムツ交換を行い出来る限りの清潔を保つように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表による排泄の支援、医師への報告・指示による排泄援助を行い、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は通常週2回だが、必要であれば随時の入浴や都合による入浴時間等の変更を行い、臨機に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて思うように過ごして頂いている。必要であれば、昼夜逆転の予防の為に支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内外用薬は看護師が管理・用意している。個々の薬の説明書はすぐに確認できるように個人記録に保存し、内容把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事等の飾り付けの作成や手伝い、テレビ鑑賞、洗濯物たたみの手伝いを行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外泊・外出の受け入れを行っている。今期は感染予防の対策として、不急・不要の外出を控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の元、金銭を所持して頂いている。施設内自動販売機の利用や受診時の買い物の付き添いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解の元、電話の取次ぎや、郵便物の受け取りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールは天井が高く、天窓から日差しが入り明るい空間となっている。冷暖房設備にて温度管理されている。ホール内は季節柄の装飾がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話の場所として、ホール内のソファやテーブルを利用して頂いたり、気ままにテレビ鑑賞をして過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等の持ち込みが出来、室内の装飾は出来るだけ自由にして頂いている。個々の居室にはトイレが設置されており、プライバシーに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の壁には手摺りが設置されており、又バリアフリーになっており、車椅子でも安全に利用出来るようになっている。利用者に状況に応じて居室に変更にも応じている。		